

**令和6年度
学校評価
(自己点検・自己評価)**

報告書

**学校法人 健生学園
東日本医療専門学校**

1. 教育目標

次に掲げる事を本学の教育目標とし、次代を担う柔道整復師・鍼灸師の育成に精励する所存である。

- ・伝統医療を継承しつつ現代の時代のニーズにあった人材育成を目指す。
- ・幅広いフィールドで即戦力となる人材の育成を目指す。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1) 生徒募集活動の充実

- ・柔整スポーツ科学科
- ・鍼灸スポーツ科学科
- ・保育園園児(今年度卒園児 4 名)

2) 国家試験対策の強化(専門学校)

- ・国家試験対策授業の実施、模擬試験の実施
- ・模擬認定実技審査の実施
- ・個別指導の強化(時代にあった取り組み)

3) 英語、体操、食育の強化(保育園)

- ・英語検定の受験
- ・体育教室月 2 回実施(カワイ体操教室講師)

4) 施設・設備

- ・修繕工事
 - 空調機の修理(3 教室)
 - 教室網戸修理(33 枚)
 - エレベーター修繕(主回路電解コンデンサ取替、昇降機機能維持修繕)
 - 保育園のテーブルライト交換工事

3. 評価項目の達成および取組状況

1. 教育理念・目的・人材育成像

評価項目	4：適切	3：ほぼ適切
	2：やや不適切	1：不適切
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4	
学校における職業教育の特色は何か	4	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	
学校の理念・目的・育成人材像・特色・未来構想などが学生や保護者に周知されているか	3	
各学科の教育目標・育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	

【課題】

- ・ホームページやパンフレットの内容を精査して修正を加えた。育成人材像や本校独自の特色等の浸透には継続した広報活動が必要と考えられる。
- ・昨今の社会問題(少子高齢化、医療費高騰など)や企業のニーズ、急速に広がる教育のデジタル化の影響に鑑みて、定期的に教育内容の見直しを検討していく必要がある。
- ・実践研究科については募集停止の状態となっており、今後の生徒募集の有無など慎重に議論していく必要がある。
- ・SNSや動画配信サービスを運用しているが効果的な配信となるような工夫と入学検討者への訴求につながるような内容か検討する必要がある。

【今後の改善方策】

- ・学校関係者評価報告書や協力企業からの提言を参考にし、SNS等の活用方法や動画配信サービスなどの活用方法を検証し、より効果的な運用方法を模索する。
- ・教育目標や育成人材像については、企業等と連携を取り、社会や企業が求めるニーズとの適合性を適宜検討していく。

【特記事項】

- ・SNSの更新やホームページ内へのコラム投稿を定期的に行い、教育方針や学校の特色などが閲覧者に伝わるように力を入れた。
- ・オープンキャンパスにおいて、昨年度の反省点を踏まえ、より本校の特色が伝わるように内容の見直しを行った。
- ・令和7年度に取得できる資格の検討を行い、来年度から美容系資格の取得ができるように準備を行った。
- ・スポーツトレーナー関連資格の取得支援のため各種対策講座を実施した。
 - 1)日本トレーニング指導者(JATI)認定試験対策講座

2)日本スポーツリハビリテーション学会認定トレーナー講習会

3)キネシオテーピング講座

4)日本赤十字社 救急法基礎講習

2. 学校運営

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切
目的に沿った運営方針が策定されているか	4
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事や給与に関する規定は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に等に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

【課題】

- ・全教職員による学校運営への参画意識の向上。
- ・責任の明確化や適正な業務分担。
- ・企業主導型保育園に特化した運営支援サービス利用を検討。
- ・保育士の確保。
- ・食育の充実。

【今後の改善方策】

- ・事業計画の策定について、十分な理解と準備が必要である。また、分担を明確にする。
- ・私立学校法改正に伴い、評議員、理事、監事の役割を理解し、令和7年4月よりスタートできるように準備する。
- ・地域方参加のスワップミート開催。
- ・地域参加型のイベント開催。

【特記事項】

- ・在学生を対象とした特別授業(各企業より講師を招き)を多く開催した。
- ・謝恩会を再開した。

- ・学生競技会を開催した。
- ・就職ガイダンスを開催した。
- ・地域の方参加のハロウィンイベントを開催した。
- ・企業主導型保育園(ダヴィンチ英智保育園)定員数 19 名、内卒園予定園児 4 名、転園予定園児 2名、待機園児 2名。

3. 教育活動

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方法等が策定されているか	4
教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の就業年数に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育や実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携によりカリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップや実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価や単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務、兼務含む)を確保するなどのマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識や技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

【課題】

- ・大学、医療機関、接骨院等で活躍している先生を講師に招き授業を行っているが、さらなる職業教育の充実を検討しなければならない。
- ・各種セミナー等に参加して先端的知識や技能の習得に努めてはいるが、体系的な取組ができるようにしなければならない。

- ・柔道整復スポーツ科学科では 2023 年度入学生から新カリキュラムを導入したが、引き続き業界のニーズや育成人材像に沿った教育ができていないか、教育目標に対する到達度等を検証する必要がある。
- ・提携企業の協力を受け、校外インターンシップを新規に企画したが、さらなる充実のために継続した取り組みが必要になる。

【 今後の改善方策 】

- ・さらなる職業教育の充実のために、インターンシップの拡充や関連分野の企業等と連携した特別講義の実施などの導入に向けた準備を進めていきたい。
- ・教員の指導力の向上や先端的技能の修得のための研修等の充実を図る。

【 特記事項 】

- ・鍼灸スポーツ科学科では卒業認定実技試験を実施し、一定水準の実技能力を修得しているかを評価している。
- ・柔道整復スポーツ科学科では認定実技審査を実施し、外部審査員による外部評価を取り入れている。
- ・今年度に柔道整復スポーツ科学科で提携企業に就職した卒業生をゲストに招き、クラス対抗で知識や技術を競う競技会を開催した。
- ・各種競技会等においてトレーナー活動を行った。
 - 1) 高校柔道競技 大会救護として派遣
 - 2) 巨理少年野球合宿 トレーナーとして派遣
 - 3) 中学校総合体育大会、新人戦(サッカー競技)に救護活動員として参加 など
- ・各企業や業界団体と連携をとり、以下のセミナーを開催した。
 - 1) 県内、県外提携企業 様 — 就職支援特別講話(13回)
 - 2) 株式会社セイリン 様 — 鍼の製造工程とハリ低周波治療器に関するセミナー など
- ・関連分野の先端的な技術や知識等を修得するため、柔道整復学校協会主催の教員研修会やジャパン柔道整復師会主催の会員総会などに参加した。
- ・将来のトレーナー活動を視野に入れる学生向けに、在学中に計画的に資格取得や研修参加ができるように学校独自の研修プログラムを策定し、実施するための準備を行った。

4. 学修成果

評価項目	4：適切	3：ほぼ適切
	2：やや不適切	1：不適切
就職率の向上が図られているか	3	
資格取得率の向上が図られているか	4	
退学率の低減が図られているか	4	
卒業生や在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3	

【課題】

- ・学年別に学習指導計画を作成し、放課後の補習等を行い学力向上に取り組んでいるが、それでも勉強習慣の改善を果たせず、成績不良による中途退学が若干名存在している。
- ・学生個々の学習レベルを把握し、モチベーション管理や学習習慣、学習方法を修得するための計画的取り組みを再度精査する必要がある。
- ・卒業後の活躍や活動状況を詳細に把握するために、さらなる交流の充実が必要である。
- ・国家資格の取得がその後の就職状況に影響することから、就職活動に積極的でない学生が一部存在するため就職率への影響が懸念される。

【今後の改善方策】

- ・中途退学は学習意欲の低下による成績不良によって発生しやすいため、引き続き学習指導計画の見直しや指導方法の検討を行う必要がある。またインターシップ等の学習意欲が高まるようなイベントの企画を検討する。
- ・就職率の向上のため、職場見学やインターシップの励行、企業説明会を行い、就職活動への理解、円滑な就職活動のサポートを実践する。
- ・担任による個人面談によって学校生活上の悩みや不安を早期に把握する。
- ・学友会との連携や、SNS等のツールを利用して、これまで以上に卒業生との交流の場を増やすことを検討する。
- ・卒業生の就業状況を把握するためのアンケート実施を検討する

【特記事項】

- ・3年次に就職支援のためのセミナーや企業説明会を開催している。
- ・学習支援として、放課後の勉強会や国家試験対策講座の実施、課題の配布、個別指導等を行っている。
- ・クラス担任との2者面談を年に数回実施している。
- ・JATI 対策講座を開催して資格取得の支援を図った。(今年度は16名中13名が認定試験に合格)
- ・卒業生向けの公式LINEアカウントを開設し、試験運用を開始している。
- ・柔整科で今年度中に行った競技会はクラス対抗戦ということもあり、クラス内の交流や他学年と

の交流が生まれ、例年よりも早期から親睦を深めるきっかけとなった。また、卒業生をゲストで招いたことで、卒業生と職員、学生の交流の場となった。

5. 学生支援

評価項目	4：適切	3：ほぼ適切
	2：やや不適切	1：不適切
進路や就職に関する支援体制は整備されているか	4	
学生相談に関する体制は整備されているか	3	
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	
学生の生活環境への支援は行われているか	3	
保護者と適切に連携しているか	4	
卒業生への支援体制はあるか	3	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3	
高校や高等専修学校等との連携によるキャリア教育や職業教育の取組が行われているか	3	

【課題】

- ・在校生に於いては、生活環境面(学習、就職支援、学費納付等以外)の相談窓口が設置されておらず、また、それに対応する専門的な人材がない。
- ・進路や就職に関しては就職課が対応しており、学生ばかりでなく、卒業生の転職相談にも随時対応できるよう、求人情報を適時収集する必要がある。

【今後の改善方策】

- ・卒業生支援の一環として、就職支援のために求人情報の提供や企業との連絡を率先して行い、国家試験を再チャレンジする人に対しても求人情報の提供や面接指導・履歴書等の添削指導を行っている旨、案内する。

【特記事項】

- ・昨今の経済状況を反映し、授業料納付に関する相談を常に受けている。
- ・年1回の学生健康診断の実施、手指消毒液を昇降口や各教室入口に設置、サーマルカメラによる検温を継続して行っている。

- ・就職支援では年1回の就職ガイダンス、合同企業説明会を1回、個別の企業説明会を13社行った。また職員室前のロビーに企業様から頂いた求人票を常に閲覧させ、履歴書添削を行っている。
- ・国家試験不合格者に対しては聴講生制度や国家試験対策セミナーへの参加、教員アドバイスのもと学習計画の設定などを行っている。また自習室の開放も行っている。
- ・3年生に対して、専門業者によるマネーリテラシーの講義を実施した。
- ・全学年に対して「こころの健康講座」を実施した。

6. 教育環境

評価項目	4：適切	3：ほぼ適切
	2：やや不適切	1：不適切
施設や設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4	
学内外の実習施設・インターンシップ・海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	
防災に対する整備はされているか	4	

【課題】

- ・臨床実習施設における職業教育の充実のために、積極的な広報活動や協力企業の募集に力を入れる必要がある。
- ・スポーツトレーナーに関連したインターンシップ、セミナー等の拡充に力を入れる必要がある。

【今後の改善方策】

- ・実習施設の利用者数を増やすために、SNSの活用、広告等による広報活動を行う。
- ・外部臨床実習施設を増やすために指導者講習会の開催を検討する。

【特記事項】

- ・プロスポーツ研修、ゲレンデ接骨院臨床見学実習などのインターンシップ、各セミナー(P.5参照)を実施した。
- ・高校柔道競技の大会に救護派遣を行った。
- ・少年野球合宿にトレーナー派遣を行った。
- ・中総体サッカー競技の救護員として参加した。 など
- ・提携企業の協力を得て、バレーボールのトレーナー研修を実施した。
- ・楽天インターンシップに参加し、プロ球団所属のトレーナーから直接指導を受けながら、プロスポーツ現場での活動について学んだ。

7. 学生の受け入れ募集

評価項目	4：適切	3：ほぼ適切
	2：やや不適切	1：不適切
学生募集活動は適正に行われているか	4	
学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか	4	
学納金は妥当なものとなっているか	4	

【課題】

- ・HP 流入、SNS 閲覧およびフォロー数の増加傾向を来校数へ反映しきれていない。
- ・来校予約や資料請求の早期化が急速に進み、高校2年生へのアプローチ強化が急務。
- ・スポーツトレーナーでの競合校差別化が弱まり始めているため、別ジャンルでの有資格者の活躍をPRすることも必要。

【今後の改善方策】

- ・エンタメ業界や美容業界などで活躍する卒業生や在校生のモデルケースを基に、過程（プロセス）も含めた目標（ゴール）達成へのサポート体制をPRし、他校との差別化を図る。
- ・勉学への意欲向上を図るため、様々な実践現場での研修機会を設け、将来性を具体的にイメージし、目標（未来像）の明確化に繋げる。
- ・来校率向上のため、広告とHPをスポーツ主軸に多分野を取り入れ、内容やキーワードに統一感を加えて相互性を高める。これにより Google の優良性も高め上位掲載と来校促進に努める。

【特記事項】

8. 財務

評価項目	4：適切	3：ほぼ適切
	2：やや不適切	1：不適切
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	
予算や収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	
財務について会計監査が適正に行われているか	4	
財務情報公開の体制整備はできているか	4	

【 課 題 】

- ・経営基盤は安定の域にあるものの、学生数を見据えた中長期にむけた計画を立てる。
- ・時代に沿った学生募集・園児募集。
- ・物価高騰への対策が必要である。

【 今後の改善方策 】

- ・機器備品等の安全点検。
- ・学校のブランディング化。
- ・魅力ある学校づくり。
- ・各種イベントの計画、開催

【 特記事項 】

- ・毎年 5 月に監事や公認会計士による会計監査を行っている。
- ・毎年 5 月に私学・公益法人課 学事班の学校基本調査を受けている。
- ・受配者指定寄付金を企業より受け、教育研究費に使用した。
- ・企業主導型保育園(ダヴィンチ英智保育園)
 - 7 月「児童育成協会」企業主導型保育施設に対する立ち入り調査。
 - 10 月「仙台市」認可外保育施設立ち入り調査。

9. 法令等の遵守

評 価 項 目	4 : 適切	3 : ほぼ適切
	2 : やや不適切	1 : 不適切
法令や専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	
個人情報に関し、その保護のために対策が取られているか	3	
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	
自己評価結果を公開しているか	4	

【 課 題 】

- ・法令等適切に遵守し、ガバナンスの確保に努めている。また、指導を受けた場合には、迅速に必要な改善・報告を行っている。
- ・IT化が進むなか、情報漏洩の管理対策をより厳重にする。

【 今後の改善方策 】

- ・引き続き自己点検、自己評価を実施し、更に学校関係者評価委員会で意見を仰ぎ、適時に開示できるように問題点の改善に取り組んでいく。

【 特記事項 】

- ・全教職員で重要性・安全性に努めており、特に問題はないが、評価項目において「やや不適切」「不適切」の評価意見があった場合は、問題点を明確にした上で、その改善を図る。

10. 社会貢献・地域貢献

評価項目	4：適切	3：ほぼ適切
	2：やや不適切	1：不適切
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか		3
学生のボランティア活動を奨励し、支援しているか		3
地域に対する公開講座や教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託を積極的に実施しているか		3

【 課題 】

- ・地域・社会に開かれた学校として積極的に情報公開、施設貸出しなどを実施する。また、教育成果を地域や社会に還元し交流を深める。
- ・ボランティア活動に参加する学生を増やすため、推奨活動の継続が必要である。

【 今後の改善方策 】

- ・学生に対する各施設や団体等からのボランティア協力依頼を積極的に受入れ、無理のない範囲内で周知・奨励を図る。

【 特記事項 】

- ・附属施術所にて一般外来患者を受け入れている。（令和6年度ははり・きゅうの一部患者のみ受け入れ）
- ・派遣依頼を受けて各種スポーツ大会への救護係の派遣を行っている。
- ・校内に AED を設置し、日本救急医療財団 全国 AED マップへ登録しており、医療系教育機関として地域住民の安全を支援している。